

会報 大学生協友の会

2023年2月3日
第37号
大学生協友の会発行



〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111
E-mail univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

22年友の会会員親睦会開催報告

さる12月3日(土) 大学生協杉並会館にて2022年度会員親睦会がオンライン参加の2名を含めて24名の参加で開催されました。

伊野瀬幹事長の開会のあいさつのあと、大学生協連和久井専務理事スタッフより中森専務理事からの報告「コロナ禍における大学生協の状況をベースに大学生協の近況報告がありました。」

2022年供給高は、対面講義が大幅に回復したが、食関連部門供給では、食堂で7割、食品で6割程度の回復率になりました。また事業総剰余では、コロナ禍以前の8割、経費も8割にとどめ、経営を維持してきました。とりわけ、大規模私学では、コロナ禍以前の登校率の回復は、望めない状況にあり、現況の登校率をベースに、経営改革をすすめるための取り組みを継続して進めていくとの報告がありました。

同時に22年7月に5200名から、コロナ禍の学生生活に関するアンケート調査結果として、失われた大学生活へのやりきれない不満とともにオンラインでも良い授業や面接も対面となり、効率が悪い」、「人間関係づくりが難しい」との意見も紹介されました。また、就職への不安として「やりたいことが見つからない」、「学生生活でアピールできる活動を何もしていない」との感想が少なくないことが明らかにされました。

また22年9月末にて大学生協共済連を解散し、10月より「コープ共済連大学本部」として発足し、1月末に、残余資産を出資金比率に基づき会員生協戻しを実施し、23年度の共済加入者目標を過去最高の16万7千人をめざす取り組みを進めるとの報告がありました。

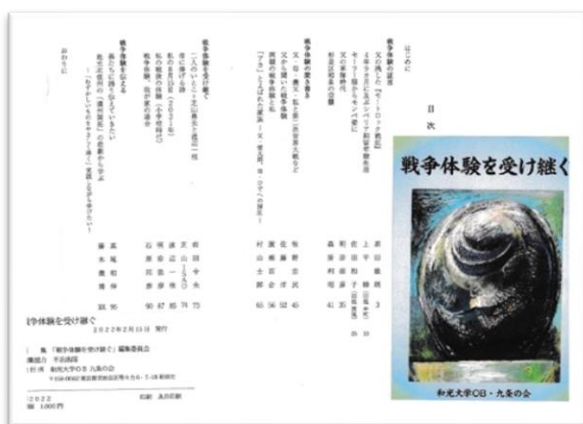
その後、参加者からの近況報告をうけて、懇親を深めました。



会員の方々からの紹介

小冊子「戦争体験を受け継ぐ」について

原田 敏朗



私の出身大学の和光大学には、2015年9月旧安倍政権による集団的自衛権の行使容認を閣議決定（2014年7月）したことを発端にして起こった「戦争法（安保法制）」反対運動を継続し、卒業生が

恒常的に行動できる組織として「和光大学OB・九条の会」（現会員170名）が結成され、活動が進められています。

この小冊子は、2020年10月に『戦争体験を親世代から継承する』冊子の作成についての訴えの呼びかけから始まり、それは「親世代から受け継いだ戦争体験を若い世代に受け継ぎたい」との思いと「戦争の当事者や子孫、関係者がその体験を語り続け、実感を広げることが大きな力になる」との考え方からでした。

私は、この呼びかけを受けて、21年11月に『モートロック戦記』に掲載された父の残した手記・「通信士の奮闘」（元本部無線通信班 原田満雄）及び『モートロック戦記』の紹介と「編集後記」へのコメント、カロリン諸島トラック島南東400キロに位置するモートロック諸島の2年間の

攻防を巡る「戦地の状況」と「戦況」などをまとめ、寄稿させていただきました。

この呼びかけに添えて、寄せられた投稿は、「戦争体験の証言」「戦争体験の聞き書き」など15編にのびりました。

この冊子にはシベリア抑留、被爆や東京大空襲、満州開拓団などが収められて、Aサイズ110頁に編集制作され、22年2月15日に400部発行され、22年11月に新聞に紹介され、完売近くなりました。

現在、法政大学（一部・ロ部）、東京外国語大学、東京経済大学などとともに大学同窓生九条の会連絡会の結成を目指し、23年1月に結成準備会、6月に結成総会の開催を計画しています。

（1）和光大学OB・九条の会「戦争体験を受け継ぐ」の申込み
頒価…送料込み1000円
*残りわずかのため
一人1冊、10名までとさせていただきます。

申込先 e-mail:

harada-t@air-linkclub.or.jp

yogu.harada@gmail.com

〒206-0024

東京都多摩市諏訪2-2

C-414

原田敏朗

（2）法政大学（一部・ロ部）、東京外国語大学、東京経済大学の9条の会への問い合わせ先
「大学同窓生九条の会連絡会」（仮称）世話人：井澤 泰（東京経済大学OB・OG九条の会）
e-mail:
pah00133@nifty.com
yasushiizawa886@gmail.com

「いもんだキッズからの贈りもの」白井健司さん
自費出版の紹介

木田 忠巳



信州大学生生活協同組合の上

司だった臼井健司さんから電子書籍発行の紹介と後日、献本もいただいた。

この本の帯には『大学生協職員が地方の大学生協立ち上げで都心から地方へ移住 素朴な学生たちとの触れ合いを通して自身が変わっていくさまが描かれた私小説……』と心の変化。時の流れへの順応。とりとめのないエピソードの洪水。気づけば本の題名になっている、「いもんたキッズからの贈りもの」の意味が読み取れる。』と紹介されている。

第1章 いもんた開店前、第2章 常備本の来た日、第3章 葉っぱの招待券、第4章 進級歓迎ビデオ、第5章 下宿ツアー、第6章 いもんた、あやしい探検隊、第7章 ユリノキ並木、第8章 彦映え、第9章 路上、終章 拾ヶ堰、と9章に渡り、あとがき等で198ページに渡っている。

る。数々のエピソードをフィクションに置き換え、登場人物も仮名だが、実名が想像される方も少なくないだろう。

第1章、第2章には、農学部生協設立までの事情や開店準備のエピソードが描かれている。信州大学は1年次に松本で過ごし、進級後、長野県下4地区5キャンパスに分散していく。信州大学生協も1960年に繊維、1966年松本、1967年工学（長野）、1968年教育（長野）と設立し、事業されていたが、南箕輪村農学部が取り残されていた。1985年12月に生協設立となり、その事情をかんすけ君が語っている。1986年4月事業開始と運営担当として臼田店長（臼井さん）が登場して、学生といっしょに開店準備を進めていく。

第3章では事業開始直後の学生参加の店舗企画活動やパート職員の役割発揮、機関誌「イツツイもんた」発行、第4章の進級歓迎ビデオでは、学生委員会合宿、絵はがき作成、農学部特性の共同購入、進級生向けにビデオ制作活

動、環境リサイクルなど、

第5章での下宿ツアーなどは農学部生協ならではの圧巻で当時、長野や上田でも実施していなかった。以後、省略、

陸の孤島のような伊那谷でネットやスマホもない時代に、学生の要望や期待、不安に伝えていっしょに試行錯誤しながら、学生の成長と交流、生協事業を進める過程が微笑ましく懐かしい。当時、松本キャンパスで勤務していた私には、供給規模や剰余数値に目を奪われがちだったが、学生といっしょに店舗や活動を作り上げていく農学部店舗報告に目を見張り、「これが大学生協か」との想いだった。

現在、コロナ禍で学生だけでなく高齢者など各世代に「分断と孤立」が進行している。

「8050」問題などが進行する日本社会で「協同とは何か」を考える素材となるように私には思える。

ぜひ「友の会」の皆様にもお勧めしたい。

☆電子ブックのお求め先

https://note.com/imonta_usui/

友の会会報への意見、投稿、原稿募集中です

2023年は、6月1日（38号）、9月1日（39号）、1

1月1日（40号）を計画しています。



退職後の近況や体験、

在職時の経験や思い出など、短い近況でも結構です。

事務局までお寄せください。

◆字数：500字～1600字（応相談）会報へのご意見は時数制限ありません。

◆送付：会報1面にある住所かメール添付にて送付下さい。

ぜひ紙面上ではありますが情報交流、意見交換できればと願っています。

あの時代、あの頃のこころ私と大学生協 〈最終章〉

大学生協友の会会員(2001年入会)・・仲田 秀



教職員院生委員会活動を活動課題研究委員会、事業活動検討委員会と併存させて運営する工夫をしていたが、とても厳しかった。93年のPCカンファレンスは、HELP事業活動委員会でした。点検討論した。その理論的整理を明確には果たせなかったが、私はPCカンファレンスは、HELP事業活動委員会でした。点検討論した。その理論的整理を明確には果たせな

かったが、私はPCカンファレンスとCIEC設立準備にエネルギーを割いた。地域カンファレンスの開催の努力をしたが、その開催が求められる地域は九州と北海道に留まった。この地域は今も毎年開催されることとなった。並列して動いた時期は体力的にも精神的にもきつかった。

【CIEC(コンピュータ利用教育学会)事務局として】(96年6月～2000年3月)

大学生協会館の移転引っ越ししながら、CIEC設立年のPCカンファレンス(早稲田大学理工)の準備をした。大学時代の友人2人にアルバイトとして加わってもらって、

初期のCIECとPCカンファレンスを軌道に乗せた。そして会長の交代、事務局の交代を見定めて退職した。交代した中心事務局は15年安定して続けてくれた。そのメンバーはバイト待遇で応援に入ってくれた友人2人と私の3人で面接して、杉並会館付近から通勤できるメンバーだった。コロナの時期を乗り切って中心的に働いてくれた最後の一人が2021年12月に定年退職した。メンバーとは今でもコロナ禍にズームでお茶会をしてつながっている。

PCカンファレンスの規模は設立総会時総代生協で約600名位だった。2017年の20年後700名と規模は漸増したが、質的には変化しているかもしれない。

72001年3月定年退職後に進学した大学院の頃

―が残っていたこと、大学生協以外の世界を知りたいと思ったことなどあって、他の世界を見ながら大学院に行こうと考えた。特に連合会に集まっている各大学生協の暦年経営数値が歴史的に分析されないことが気にかかっていた。忙しくても、総じて、わたしは常に主体的であったのだと思う。人と人とのつながりを大切にしながら、納得できないことはしないできたのだと思う。だから、気になったことは何事も手を抜かず、丁寧に追及したいの思いだった。

私が大学生協を論文のテーマに選んだのは、それが、自分の生きて来た証だからである。そしてまず、母校の先輩から福武直を客観化するテーマを指摘され、第一の私の仕事と考え、「大学生協と福武直」を修論のテーマとした。

大学生協連での足掛け14年は、走り通しの仕事人生だった。60歳でまだエネルギー

修論を書き終わって物足りなかった自分がもう一歩進めてものになるかどうかを相談す

るために尋ねたのは、福武先生の一番弟子と言われた人だった。彼は一時東大生協の理事をやったことのあるあこがれの人であつた。彼は修士の社会人入学を推薦してくれた人でもある。修論はこれでいい、しかし、博論はきついよ。でもやってご覧といつてくれた。

それから、大学の先輩、地域の英語教師の先輩につき合ってもらいながら苦手な英語を勉強し3浪をし、これでダメだったらあきらめようと思つて受験した3年目に法政大学大学院に入学出来た。その間に地域の9条の会、教育問題を考える集いと調布武蔵境通りの拡幅工事の住民運動に関わつた。

法政大学に入る時、方法論はどうするのだと詰められ、入学してから方法論探しに2年余りかかった。

その間に68才が限度という海外協力隊の説明会にも顔を

出し、自分の語学力では危険が一杯の国にしか行けず、娘の仕事をサポートするにはそれは夢に過ぎないことを理解した。そこで危機的状況への手助けと言われて、国内ボランティアをすることにした。東京高齢協のサポートバイトを一年半行つた。

そんなこんなで4年が経過し、指導教官の定年前に提出すべく、自分の頭で考え、文章をひたすら書いて製本して提出し、酷評をうけた。繰り返しながら、論文の修正に取り掛かつた。一向に学会誌投稿が決まらぬところ、ある編集長からとにかく発表してしまつたらどうかとの提案があり、数値部分を大学院紀要に掲載した。その時、満期退学の期限により、満期退学し、大学院紀要への投稿を2回続けて発行し、けりをつけ、喜寿を迎えた。文集を出したい！とお願いして、論文集「大学生協の持続的发展について」理事会のり

ーダーシップと経営業績」を発行することとなり、図書館と各大学生協へ寄贈できた。学生委員会OBのザクロ会という名で発行カンパも加えてもらい、論文集発行に当たっては、「仲田さんの考えていることは私が一番わかっている」と手を挙げてくれた山田謙次さんが面倒な編集を引き受けてくれ、かつて東大生協の組織宣伝部室と一緒に仕事をし、早世した真知子さんの弟・矢野智さんが事務局を勤めてくれた。皆さん！本当にありがとうございました。(完)



会員の皆さん、回想記事連載ご愛読ありがとうございました。仲田さん貴重なご寄稿ありがとうございます。

2022年度第1回幹 事会開催報告

日時…2022年12月3日
(土)

場所…大学生協連 杉並会館
出席…伊野瀬 宮寺 倉橋 説田
釜田 塩谷 平田 和久井 茂垣
柴田 中村 大久保 (以上幹事)
古越 和知 (以上会計監査)

☆協議事項☆以降を協議確認

①2023年3月末退職者への友の会入会取組について
②2023年友の会総会特別企画検討について

③友の会第37号会報(2023年2月1日発行)計画
④第12回会員親睦会運営
⑤2023年度大学生協友の会総会日程について開催日7月8日(土) 11時開会予定

⑥親睦会日程について
開催日…2023年12月2日(土) 14時開会予定

☆次回幹事会(単独開催)

開催日…2023年4月8日(土) 15時開会予定

岸田政権の「軍拡増税」閣議決定の撤回を！

2023 年 1 月 5 日
大学生協友の会幹事会

岸田政権は、昨年 12 月 16 日に「国家安全保障戦略」など安保関連三文書を改訂し、翌週 23 日過去最大となる 6 兆 8 千億円（前年度比 26% 増）の防衛費を含む 2023 年度予算案を閣議決定しました。

これら二つの閣議決定は、歴代政権が戦後一貫して否定してきた敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有、防衛予算の国内総生産（GDP）比 2% への倍増など「武力による威嚇と行使を国際紛争の解決手段としない」旨を明記した憲法 9 条を貫く「専守防衛」とは相容れないものです。

またこの閣議決定は、2014 年 7 月に安倍元首相の「集団的自衛権の行使容認」と軌を一にした岸田政権の常套手段です。しかも集団的自衛権の行使に不可欠な「抑止力」としての敵基地攻撃を可能とし、日米安保条約を根拠に米軍指揮の下で自衛隊を参戦させる安全保障政策に他なりません。

さらにこの閣議決定は、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻を契機に東アジアにおける危機意識を煽り、日本周辺で続けられてきた日本海、尖閣、台湾などの「緊張」報道を巧妙に利用し、国民の戦争への不安と恐怖心に付け込んだものであり、国民的な論議を経たものでもありません。

この敵基地攻撃能力（反撃能力）は、他国への武力攻撃によって、第一弾の攻撃を阻止できたとしても、仮想敵の攻撃基地全てを無力化しない限り、双方の国の攻撃が繰り返されるだけであり、その実際は、ウクライナ戦争を見れば、明らかです。

また日本に 54 基ある原発被弾による被曝は、一基さえ福島原発事故の数百倍に及ぶ惨禍をもたらすと予測されます。エネルギー資源と食糧資源の自給率の低い日本に求められることは、世界平和とグローバルな国際環境であって、特定の仮想敵国を想定した先制攻撃も辞さないとする戦争準備ではありません。

また GDP2% 防衛費のために企業の賃上げマインドを損なう法人税、二重課税でもあるたばこ税などの増税は言うに及ばず、いわんや東日本大震災と福島原発事故からの復興を目的とする復興所得税の転用や建設国債の起債などももっての外です。

私たちは、この閣議決定を撤回させ、戦争を国づくりの柱にした戦前の日本への回帰に走る岸田政権の軍拡増税をやめさせ、専守防衛を基本とした平和外交をすすめ、核兵器禁止条約批准、原発ゼロ政策推進等の取り組みを進めるように訴えるものです。

戦争は、抑止力で止めることができません。また死の商人を除けば、戦争が誰をも勝者としにくいことも自明です。 (完)

【ご紹介】：大学生協友の会とは、全国の大学生協に在職した役職員及び OBOG が任意に会員となり、大学生協在職経験者の誰でもが参加できる親睦会です。

【「生協だれでも 9 条ネットワーク」からのご案内】

「日本を戦争する国にしないために！」学習と討議のつどい

日時：2023 年 2 月 11 日（土）14:00～16:00

場所：主婦会館プラザエフ 5 階会議室（JR 四ツ谷駅麹町口前徒歩 1 分）

講師：矢野 裕（全国革新懇談会代表世話人、元・狛江市長 4 期など）

連絡・申込先：世話人藤原一也：kazuya@yk-ms.com